

原町支部総会 2年振りに開催

2020 年初頭から、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 が世界中に蔓延し、パンデミックとなっている。これまで再三緊急事態宣言が出され、昨年一年間のみならず今年もこれまで総会はなかった。

原町支部は、役員会で検討、熟慮を重ねた結果、広い会場で感染防止に十分な配慮を施し、総会のみ開催する決断をしましたと、平間勝成支部長さんから連絡をいただいた。

2021 (令和 3) 年 5 月 30 日 (日)、午後 1 時より、南相馬市原町区石神にある「石神生涯学習センター」で行われた。まず、記念撮影をした。



セルフタイマーが押されようとする直前に、各人マスクを外すという算段である。

しかもこの写真は、会の終了時には全員に配布されるという配慮がなされていたのである。

総会は、高玉利一さん (昭 51 卒) の進行で始まった。開式の言葉は、副支部長の松田武久さん (昭 27 卒)、校歌は、林博太郎さん (昭 26 卒) のハーモニカの見事な演奏だった。我々は演奏に合わせて小さく口ずさむ程度に歌った。

会員物故者への一分間の黙祷、そして平間支部長 (昭 45 卒) さんの挨拶、続いて来賓祝辞は、馬城会長村山と相馬高校に 4 月に着任された瓜生康弘校長先生 (喜多方ご出身) の 2 名、また学校新聞など多くの関係資料を用意し同席の馬城会事務局長今野直樹先生も紹介された。



←平間支部長さんの挨拶



←支部旗

議事は、菊地洋一さん (昭 53 卒) の進行で、滞りなく承認された。また、若い会員が入らないと会が続かなくなるので、卒業のとき、学校からも各支部への入会をプッシュしてほしいとのご意見、要望があった。

最後に、副支部長志賀忠重さん (昭 38 卒) が総会を締めた。

続いて、原町支部恒例の会員によるアトラクションが披露された。最初に渡部光明さん (昭 27 卒) の観世流謡曲。能や能舞台についての基本的な解説をされた後、「橋弁慶」と「高砂」の一部、そして「人間五十年」を、とても米寿などとは思えない朗々としたお謡いをご披露して頂いた。



続いて林博太郎さん（昭26卒）のハーモニカ演奏であった。



♪「夏の思い出」「知床旅情」
「早春賦」「影を慕いて」「赤とんぼ」「鐘の鳴る丘」など、伴奏をつけた鮮やかな演奏を次々と披露された。

なお、主に「相中相高百年史」などから、原町出身の先輩9名の「思い出の記」を拾い出しコピーしたプリントを用意し、祝辞の中で紹介した。（以下敬称略）

- 「昭和初期の汽車通学の学友」 佐藤一雄（中31回・昭8卒、原町）、
「中学時代の思い出」 渡部嘉親（中32回・昭9卒、石神）、
「“汽車通学の伝統”旧音楽室でのこと」 大澤英雄（中40回・昭17卒、高平）、
「紅の血は燃えて……学徒動員」 高橋敏夫（中43回・昭20卒、大甕）
「アメリカ映画の魅力」 渡辺 旻（中48回・昭24卒、原町）
「朴下駄の頃」 松本 誠（高3回・昭26卒、原町）
「『至誠通天』を座右の銘として」 小野田英雄（中41回・昭18卒、高平）←創立90周年記念誌“紅の旗”
「相馬高校バレーボール部の生い立ち」 羽生謙次（高3回・昭26卒、原町）←創立110周年記念誌“紅の旗”
「懐かしい『小高郷友区』」 石橋 武（高4回・昭27卒、太田）←創立110周年記念誌“紅の旗”

初めて原町支部総会に出席して、羽生謙次様にお目にかかることができ、プリントを用意した甲斐があったと思った。現在も、相高バレー部のためにご活躍されているとのことであった。

昨年1月、調布市「武蔵野の森総合スポーツプラザ」で開かれた春高バレーの全国大会に行った。応援席で空いていた椅子に座ったら、何と隣が、彼の文章の中にあった目黒博先生（やはり昭26卒）だったのだ。全くの偶然だった。私が小学校高学年のとき駒ヶ嶺小学校に赴任してきた。放課後毎日、校庭で子供たちにバレーボールを熱心に指導していた。今はいわきにお住まいという。

また、渡部光明先生が、謡曲をご披露するまえにおっしゃった。プリントにある渡部嘉親は、私の兄なのですと。創立35周年記念事業として建設された「講堂」落成時、在校生代表として兄が祝辞を読んだときの感激がこの文章の中にもあり、感慨深いご様子だった。

先輩たちが記念誌に綴った文章を通して、時を隔てて新たな出会いができた。本当によかった。

(2021.6.2 村山)